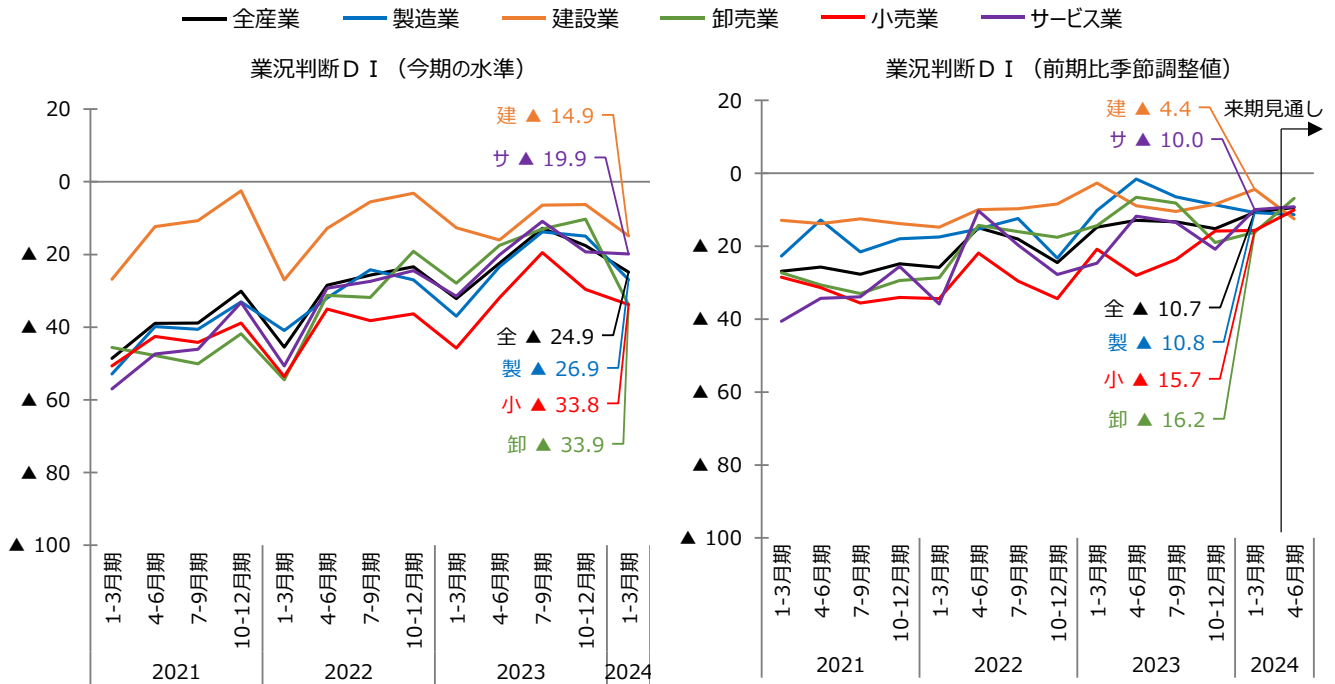


# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 北海道



## 1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より7.3ポイント減の▲24.9と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

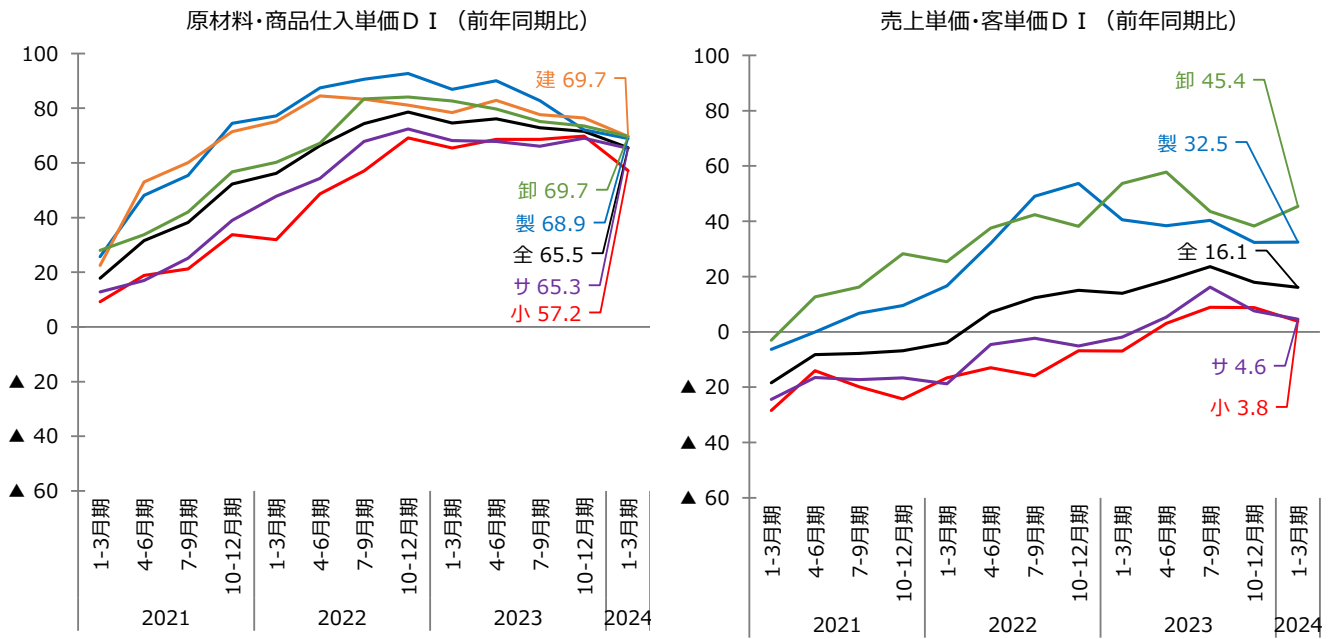


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年10-12月期）と比べて「好転」「不变」「悪化」で質問

## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より6.0ポイント減の65.5と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の16.1と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、北海道：724企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 北海道

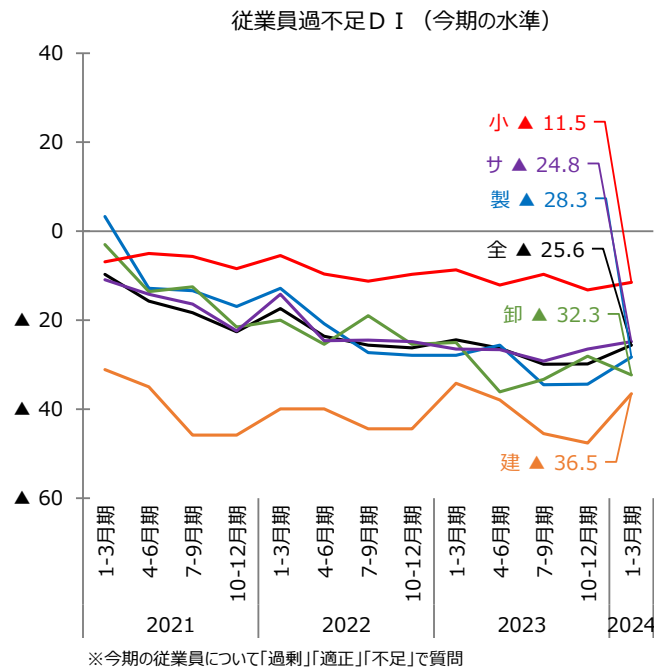
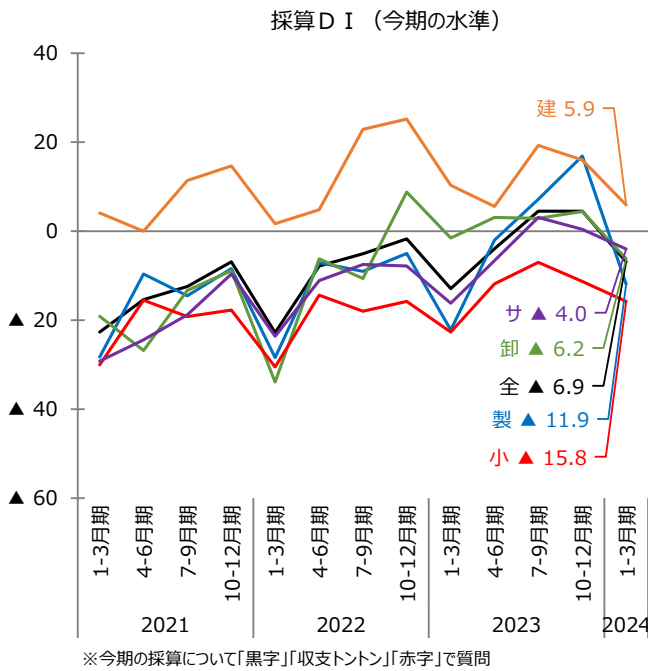


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より11.4ポイント減の▲6.9と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の▲25.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、小売業、サービス業で上昇、卸売業で低下した。



## 5. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	ここ数年の受注数増加に伴い、数か月前から積極的に人材獲得に力を入れてきました。今までの求人方法ではなく、SNSを駆使し、募集をかけたところ、今期より1名の採用が決まりました。	製造業 鉄骨製造業
	今期、来期の業況の要因として民間需要の低下が挙げられます。一部の観光及び宿泊等の業況は改善されても、設備投資までの勢いはなく、他業界も同様です。仕事がなければ職人もいなくなるため、悪循環に陥ります。	建設業 一般土木建築 工事業
	該当なし	卸売業
	仕入単価上昇に伴い、販売価格を上げざるを得なく、一見、売上が増加しているように見えるが、実際は光熱費等の経費も増加しているため、利益が少ない。	小売業 各種食料品小 売業
	検査仕様が変化することにより、OA機器が必要となり、その機器の活用方法を習得することが必須となる。近年では技術者の確保もさることながら、高齢化する従業員の電子化及び技術向上に限界を感じる状況である。	サービス業 自動車一般整 備業
見通し	原材料高騰は続いているが、価格転嫁が追いついたため、業況は好転。繁忙期の在庫を、この閑散期に一気に作るため、一時的に赤字になるが、新規の取引先も増えているので、4～5月からは黒字計上の見込み。	製造業 水産缶詰・瓶 詰製造業
	決して今年度が良いわけではなく、コロナ禍であった昨年1～3月が悪すぎた印象。中小企業においては、好景気は感じられず、2024年度からの建設業問題や運送業問題によって、更に首を絞められる状況になる。	建設業 道路標示・区 画線工事業
	該当なし	卸売業
	業種によって、好況もあるが、不透明な環境で一般的に財布のヒモは緩まない。経済成長を実現し、消費者に需要回復を願いたい。	小売業 他に分類され ないその他の小 売業
	円安による外国人旅行者の増加。仕入価格は上がっているが、宿泊者が増加したことで、カバーできている。将来、円高になり、利用者が減っても、仕入価格が変わらないことにならないか心配である。	サービス業 簡易宿所

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

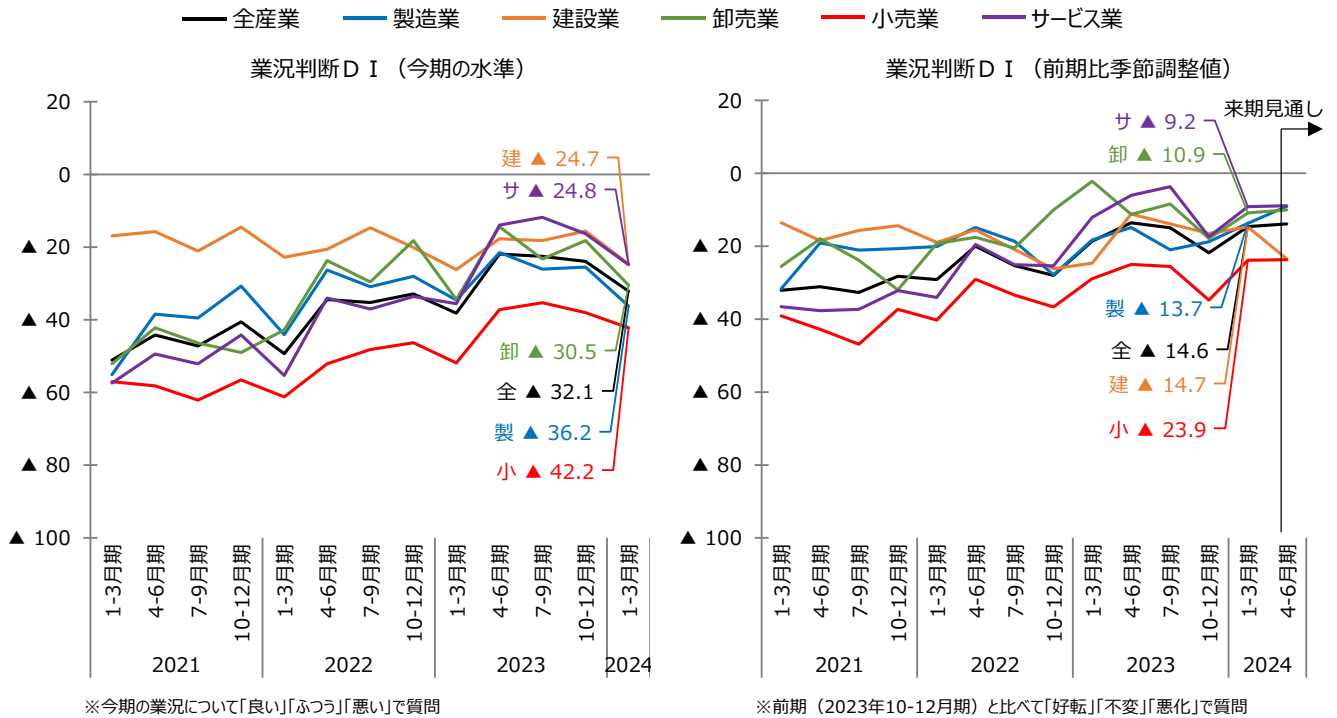
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 東北



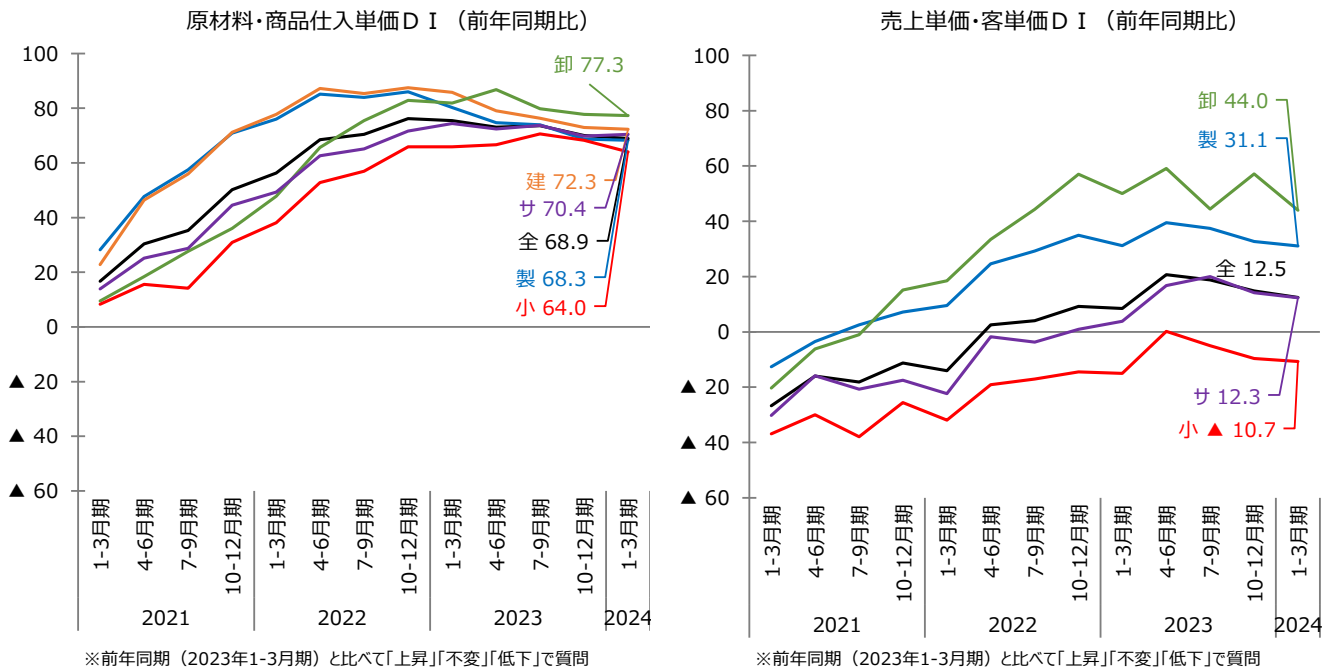
## 1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より8.2ポイント減の▲32.1と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.1ポイント減の68.9と2期連続して低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、建設業、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の12.5と3期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、東北：1,854企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 東北

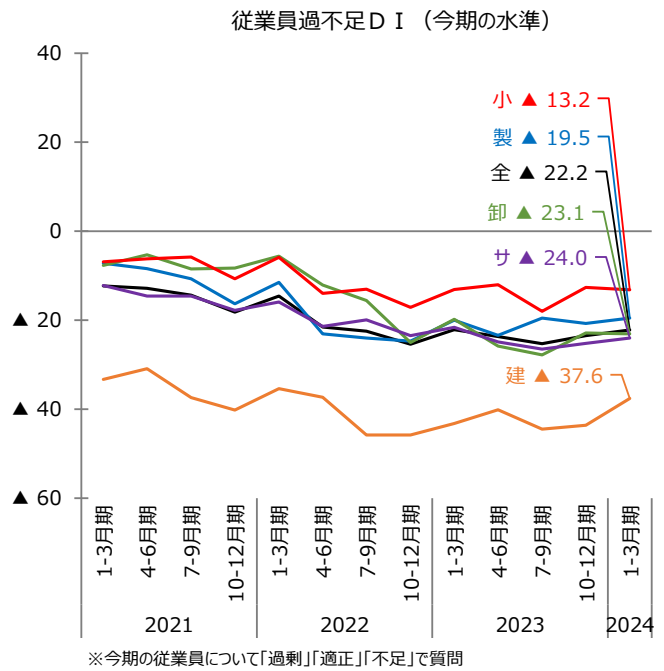
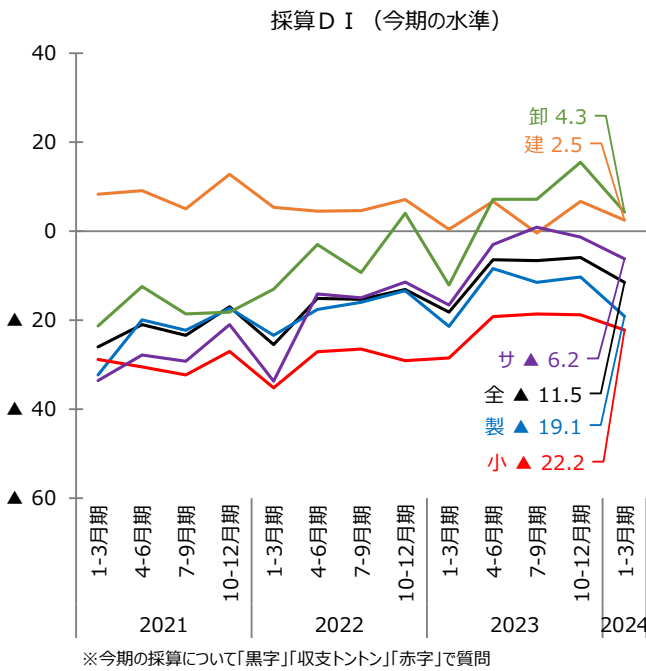


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.6ポイント減の▲11.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の▲22.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇、小売業、卸売業で低下した。



## 5. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	注文や引合いは増えているが、単価も悪くないが、手間のかかる仕事が多く、日程調整に苦慮する。	製造業 建具製造業
	昨年、若手を3名雇用しましたが、熟練技術者の定年退職があり、教え手が不足している状況です。	建設業 一般電気工事業
	諸物価の上昇に賃上げが追い付いていないため、生活必需品であっても、需要が伸び悩み傾向にあると感じています。この春の賃上げが、中小企業までしっかりと実施されることが極めて重要と考えております。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	販促に繋がる設備投資を計画しているが、円安の影響で機材が高騰し、資金繰りが大変で、なかなか導入したくてもできない状況である。	小売業 スポーツ用品 小売業
見通し	インバウンド増加により、観光業は盛況感が増してきているが、従業員不足などにより対応しきれず、また、同日に予約が集中してしまい、受入できないことなどがあり、売上も伸びきれていない。	サービス業 一般貸切旅客 自動車運送業
	単価上昇も、数量低迷が続くそうで、不安感が拭えない。来年度は、2024年問題の影響も、色々な方面で、出てくると予想している。	製造業 生コンクリート製造業
	材料価格が上昇しているが、単価も上昇しているため、相殺されている。今後も、材料価格が上昇し続ける場合には、状況が変わるかなと考える。	建設業 一般土木建築工事業
	全体的に量販店の業績が好調であり、県内外の量販店を主要顧客としている我が社の業績を押し上げている。新年度も活発に新店、改装などが行われる計画もあり、より丁寧かつ役に立つ提案を行い、売上を確保したい。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	最低賃金の上昇により、人件費全体が毎年のように増加しています。人員不足に対応する為に、募集時の給与を高くしても、応募は来ず。今年は、新紙幣対応の釣銭機も導入しなければならず、相変わらず、状況改善は見えて来ない。	小売業 ガソリンスタンド
コロナ融資のゼロ金利が終わって、今後は借入金の負担が増加する点が懸念事項。	サービス業 受託開発ソフトウェア業	

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

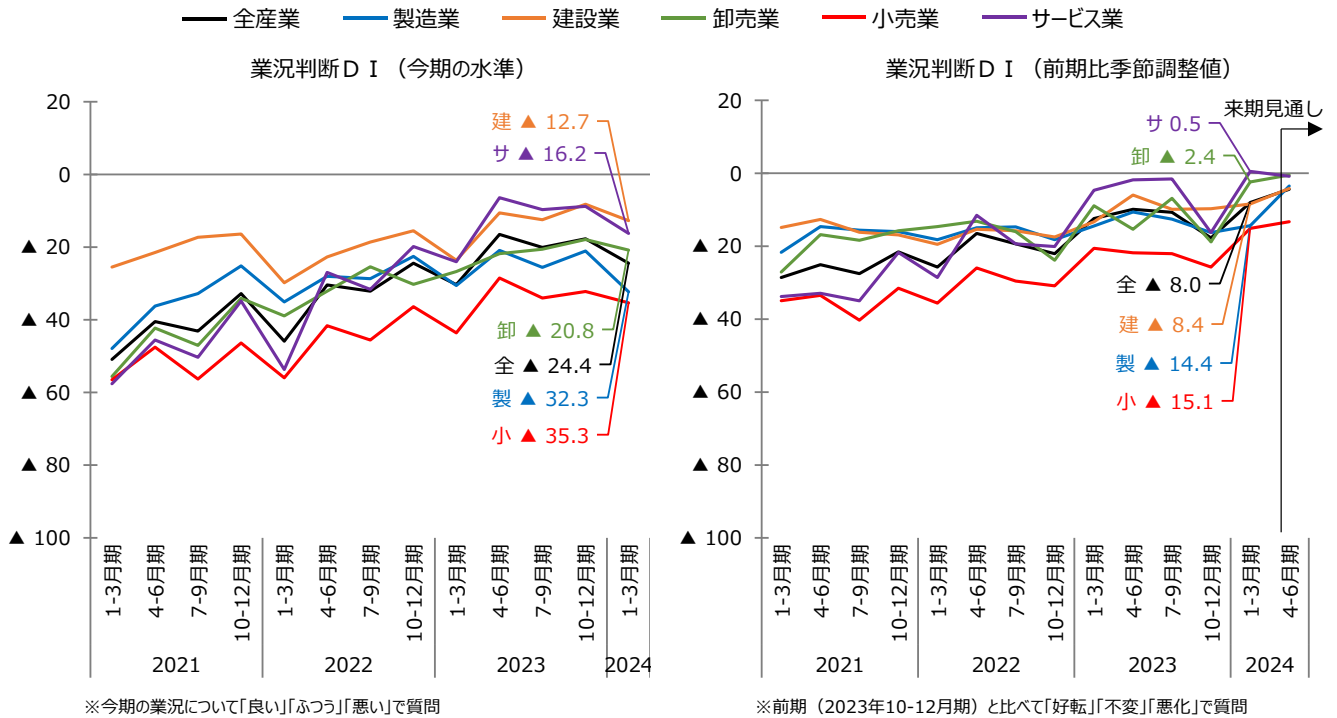
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 関東



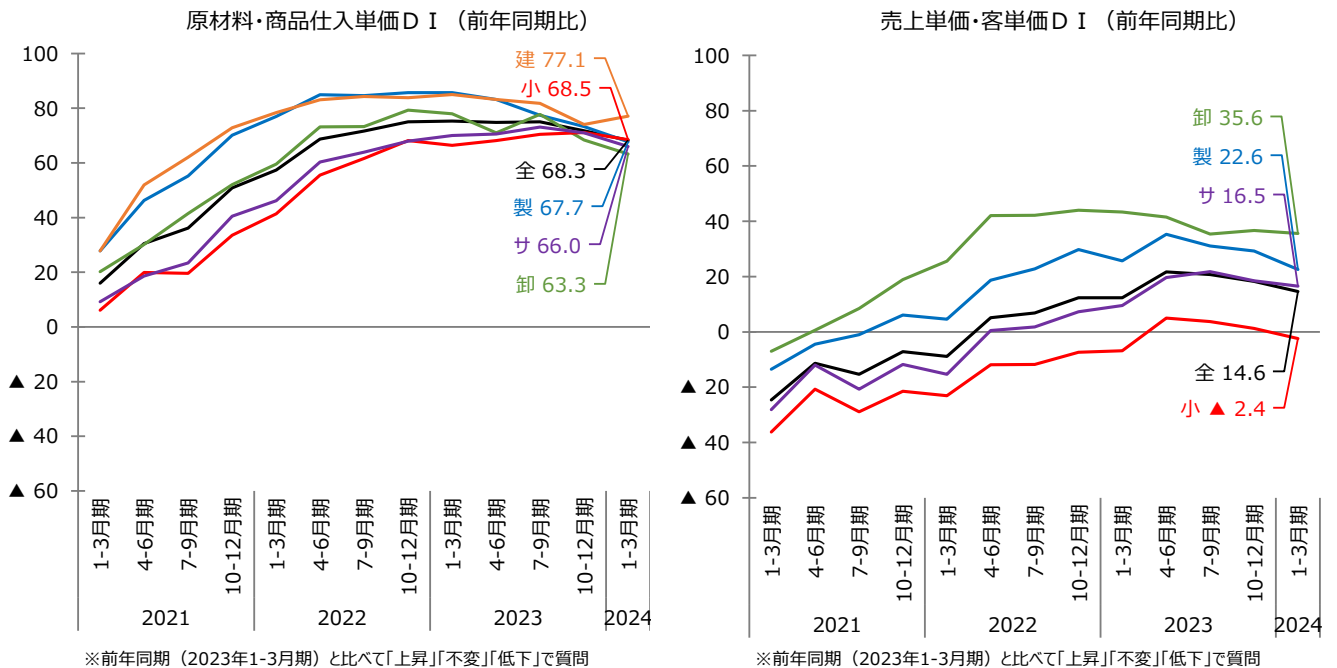
## 1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より6.7ポイント減の▲24.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.5ポイント減の68.3と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、製造業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.7ポイント減の14.6と3期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、関東：4,842企業

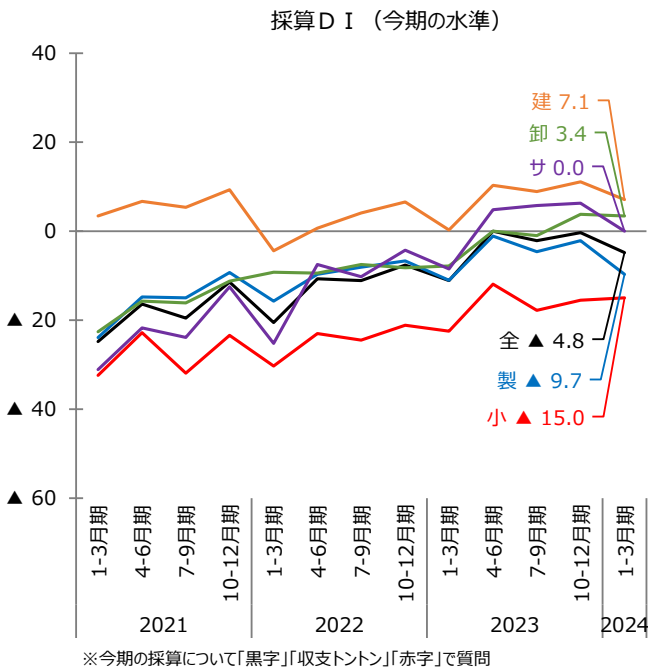
※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 関東



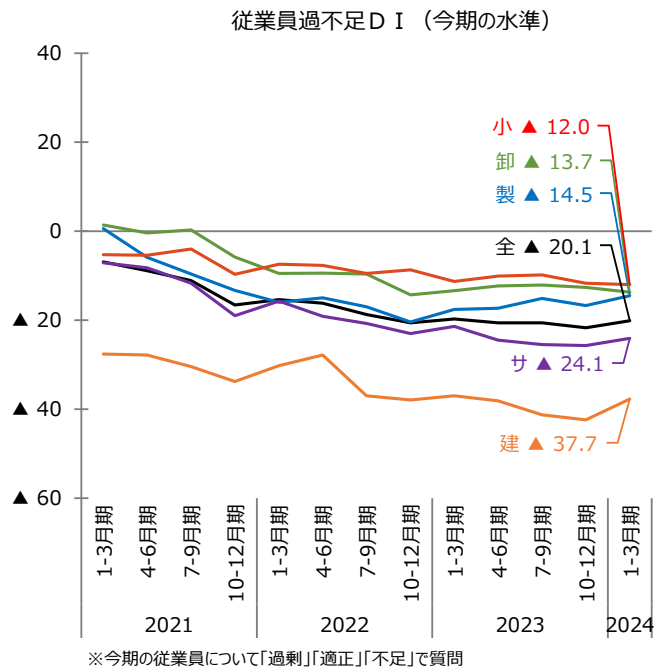
## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.5ポイント減の▲4.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、製造業、サービス業、建設業、卸売業で低下した。



## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の▲20.1と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



## 5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	原料の価格高騰がいつまで続くのかが気になる。相場に左右されない調達が求められる。今回の地震の影響はなかったが、BCPの見直しが必要。	製造業 米菓製造業
	材料の値上げや人手不足により、下請け業者の価格の値上げが見受けられる。また、熟練技術者の確保が困難で、単価を他業者よりも多く支払わないと確保できない状況である。	建設業 木造建築工事業
	粗利益率の低下、人件費比率の上昇が、収益下押し要因として、大きな課題と感じている。	卸売業 家具・建具卸売業
	前期よりも、売上金額自体は増加しているが、人件費や燃料費などの経費の増加や、コロナ時の借入金の返済などにより、業況が良くなったとはあまり感じていない。	小売業 その他の機械器具小売業
	昨年までの各種キャンペーン等が終わった影響が、秋以降の人の動きが弱いままである。年が明けて、2月頃から少しずつ回復してきた感じはあるが、人や物の値上がりの影響もあり、良い状態とは言い難い。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	4月より、原材料価格値上げが決定し始めている。価格転嫁の交渉を開始したが、原材料だけでなく、運送料や労務費の上昇分もあわせて値上げするつもりなので、難航が予想される。	製造業 ボルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等製造業
	新築の受注またはリフォームの受注があり、好転傾向にはあるが、逆に職人不足により、現場が回らない状況にある。また、能登半島地震復興による原材料の高騰も、懸念される。材料不足が、既に発生している。	建設業 大工工事業 (型枠大工工事業を除く)
	前年同時期と比較して、売上が伸びている。原因として住宅資材関係が悪い中、イベント関係材料と船舶向けが良い傾向なので、今後もしばらくは続くと思われる。	卸売業 木材・竹材卸売業
	コロナ禍が落ち着いてきたとはいえ、ライフスタイルの変化も生じてきていて、従来に比べて、購買意欲の低下を感じている。来期のペアでは、当面需要の喚起は望めそうになく、数年後に下げ止まれば良い。	小売業 陶磁器・ガラス器小売業
	長年据え置かれてきた運賃の値上げが、4月より、ようやく決定した。2024年問題との兼ね合いもあるが、単価だけでなく、売上総額も上昇する見通しである。	サービス業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)

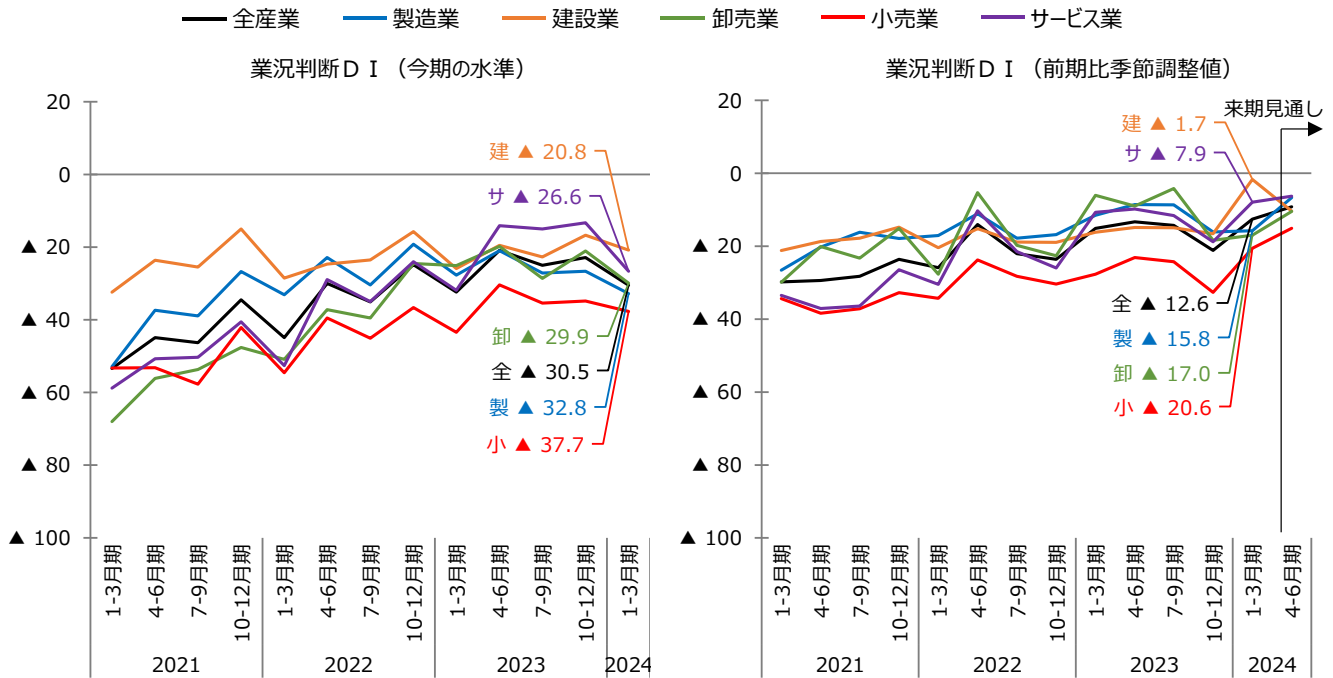
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中部

## 1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より7.6ポイント減の▲30.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

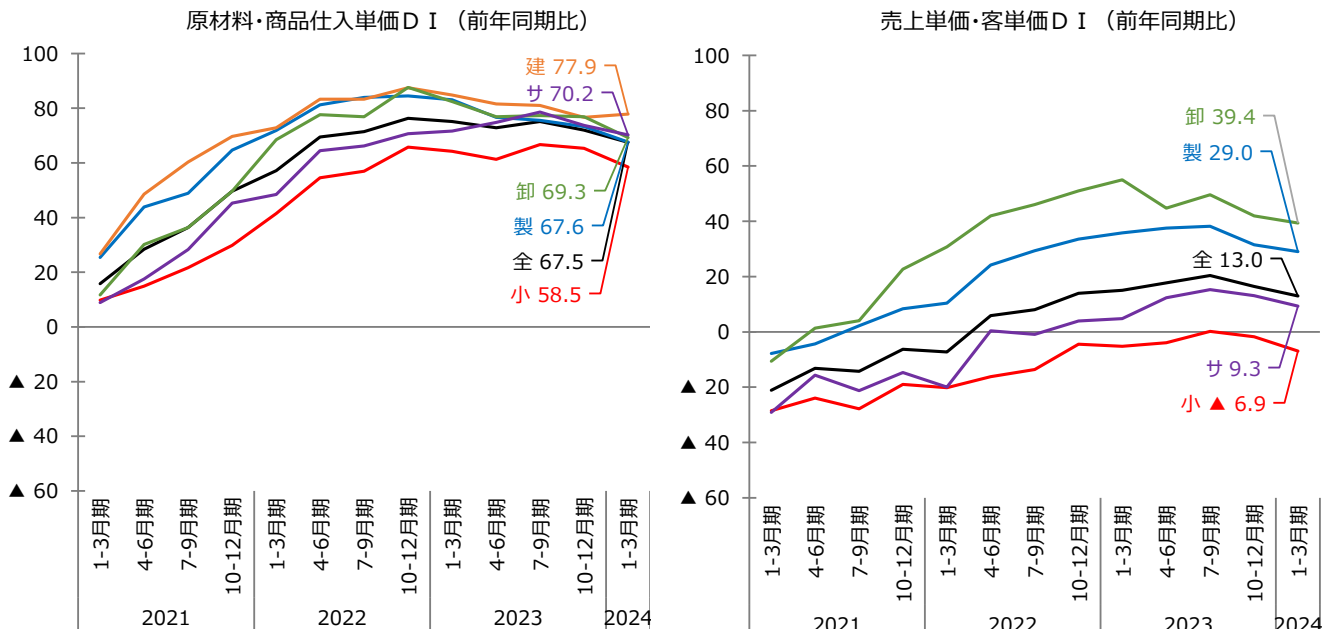


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年10-12月期）と比べて「好転」「不变」「悪化」で質問

## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.5ポイント減の67.5と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、小売業、製造業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の13.0と2期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不变」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、中部：2,241企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中部

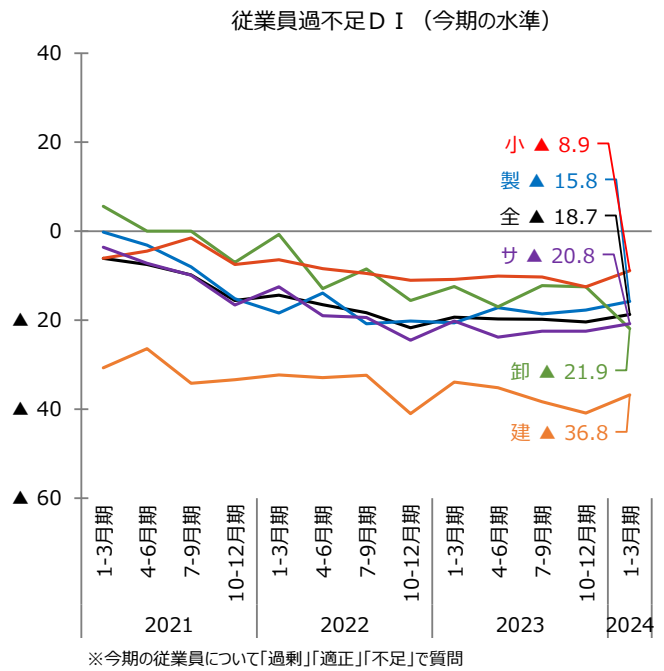
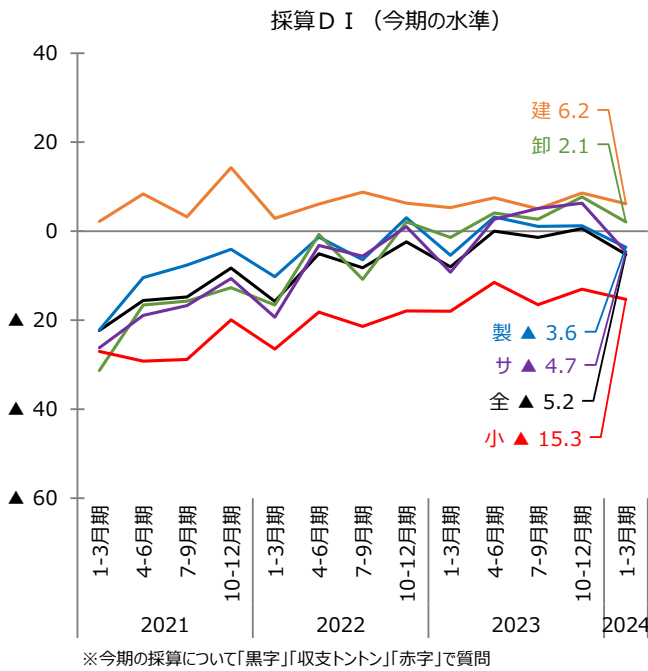


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より5.8ポイント減の▲5.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.7ポイント増の▲18.7と4期ぶりに上昇した。産業別では、建設業、小売業、製造業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



## 5. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	能登半島地震の影響で、1月の稼働日数が少なく、かなり痛かった。受注も不安定で、被災している取引先も数社あるので、元に戻るまでしばらくかかりそう。	製造業 半導体製造装置製造業
	幸い新入社員が増加したが、人材育成が課題であり力を入れている。また、女性社員が入社するので、職場環境整備にも注力している。	建設業 一般土木建築工事業
	この度の能登半島地震による経済の影響は、北陸地方においては深刻であると感じます。	卸売業 ジュエリー製品卸売業
	能登半島地震が発生し、自店の老朽化が心配になった。店舗の建て替えも検討しなければならない。材料費や部材費の価格上昇も利益を少なくする要因になっている。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	コロナの制限が緩和され、コロナ禍よりも注文・予約が入るようになったが、まだまだコロナ前のようにはいかない。店舗施設の老朽化も心配だが、設備投資を前向きに実施していくまでにはいかない。	サービス業 料亭
見通し	自動車部品の発注量が多いものの、メーカーの不正等による減算が続き、不透明感がある。F A 部品等、汎用品は中国不況の影響もあり、減産・在庫調整に入った。全般的に業況は悪く、先一年は続きそうだ。	製造業 アルミニウム・合金プレス製品製造業
	回復の兆しはあるが、能登半島地震や建築基準法の改正予定等、先行きに不確定要素があるため、見通しは立ちにくい。	建設業 木造建築工事業
	消費者の購買意欲は未だ上昇していない。今後、賃上げが進行し、業況が活性化することが重要である。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	コロナの影響からの回復を期待していたが、1月の震災により、来店を含め、売上の大幅な停滞による大打撃を受けた。今月に入り、徐々に来店が増えてきたが、もう2、3ヶ月は苦しい状況が続くと思われる。	小売業 金物小売業
	食材費の上昇が収まらず、売値を上げていかないと採算が合わなくなっています。物価が上がるのと共に、従業員の給料を上げていきたいので人件費も上がる見通しです。利益としては、不安だと感じます。	サービス業 その他の専門料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

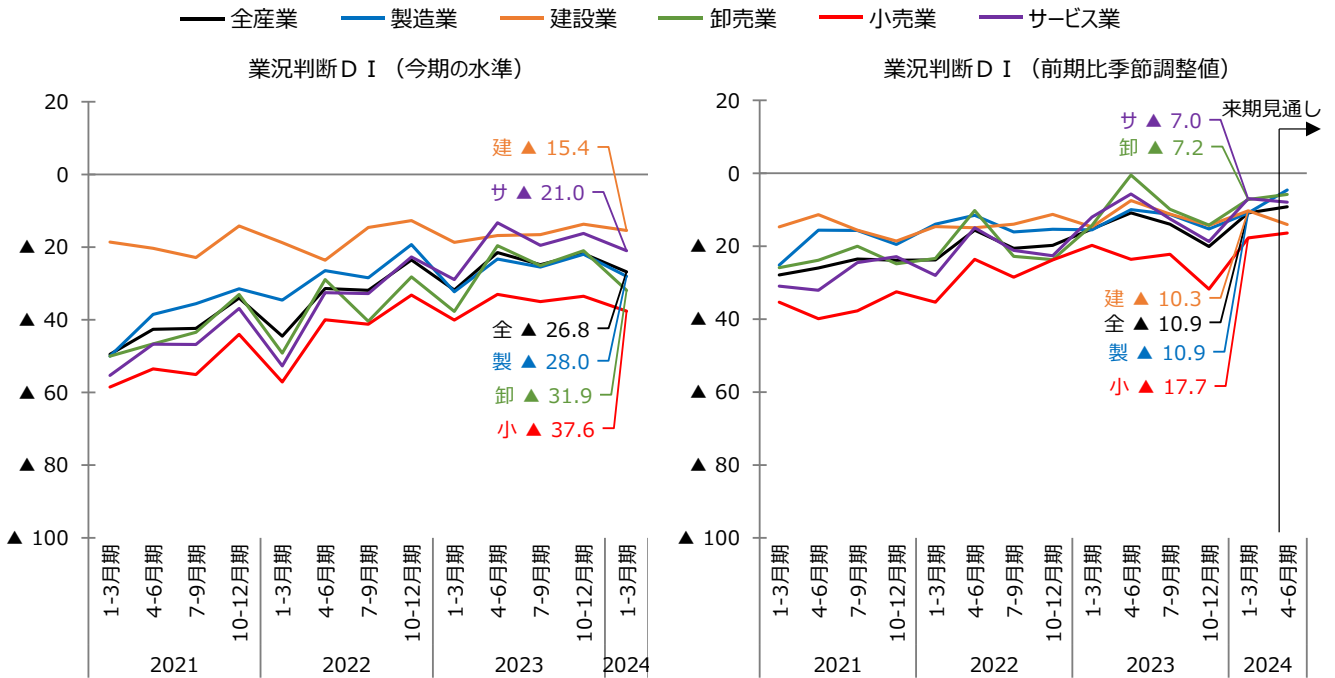


# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 近畿



## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より5.0ポイント減の▲26.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

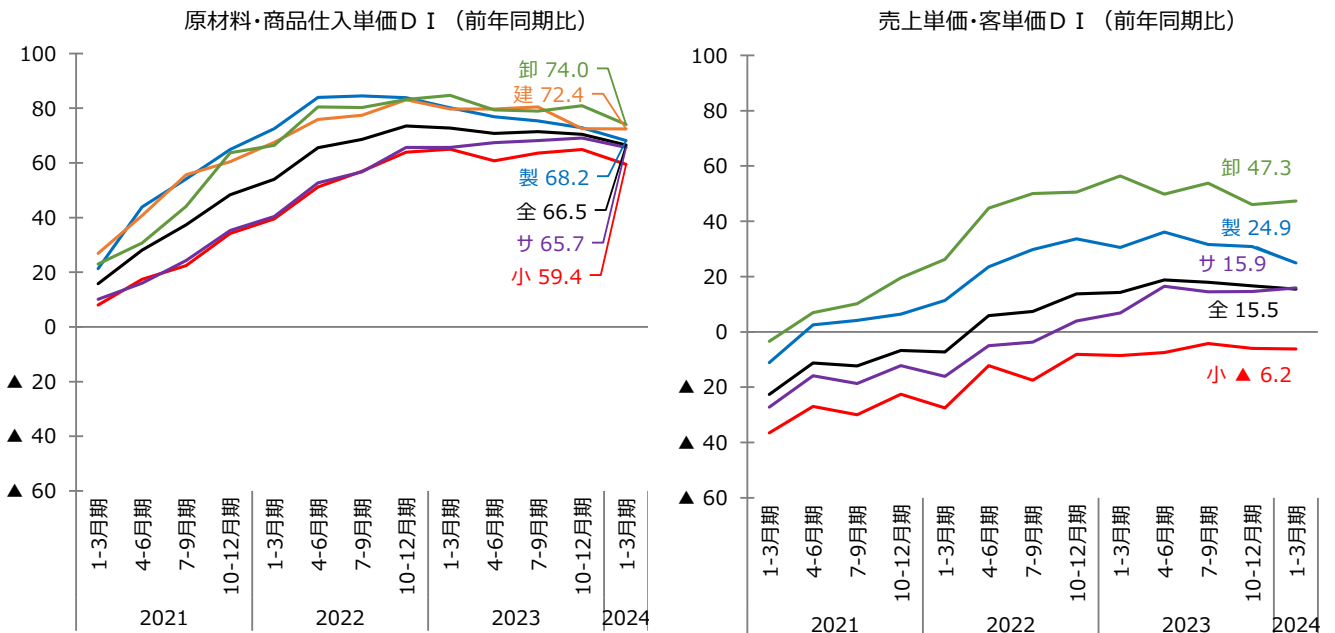


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年10-12月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の66.5と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.2ポイント減の15.5と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業で低下した。



※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2023年1-3月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、近畿：2,491企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 近畿

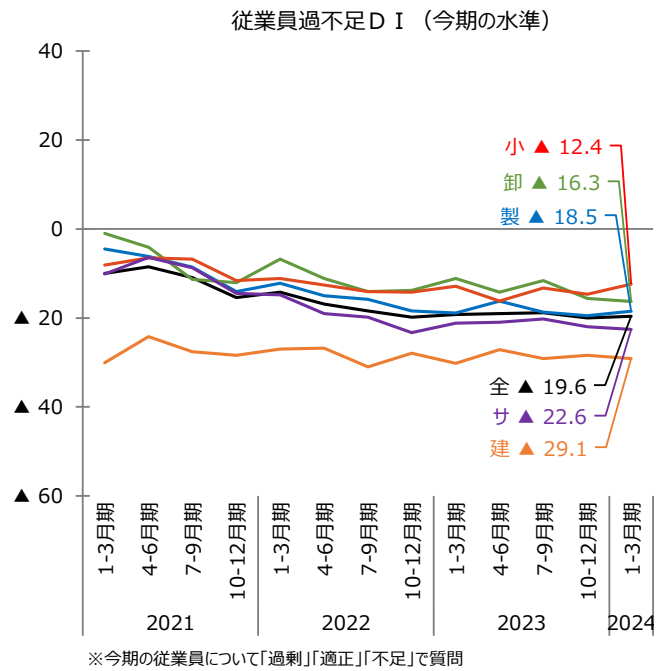
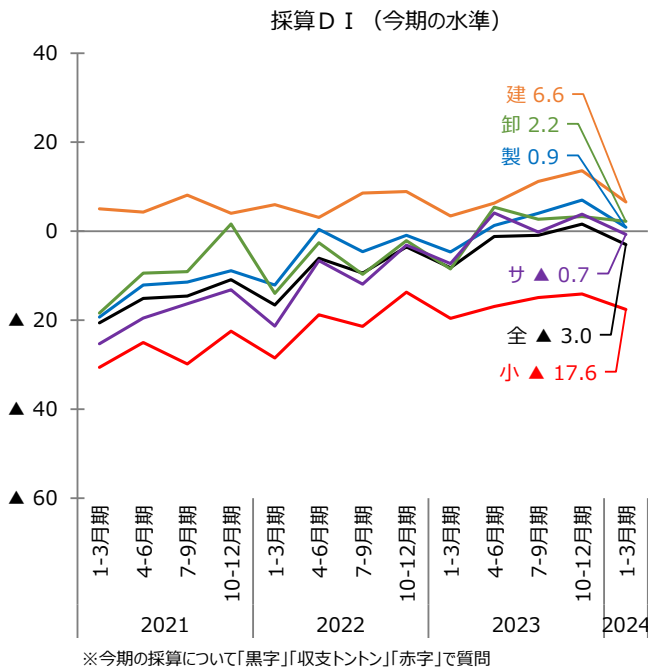


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.6ポイント減の▲3.0と4期ぶりに低下した。産業別にみると5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の▲19.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、卸売業、建設業、サービス業で低下した。



## 5. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	半導体関連の需要は高いレベルにあるが、足元では一時的な減速傾向にある。半導体以外は、需要の停滞が大きく見られる。原材料価格の上昇が続いており、経営を圧迫している。今期は前年に比べ、厳しくなりそうだ。	製造業 他に分類されないプラスチック製品加工業
	新幹線開業に伴う建設特需が終息し、県内の建築需要が落ち着いた感がある。建設資材メーカーの当社においても、受注数、単価ともに減少傾向にある。	建設業 鉄筋工事業
	従業員の確保が非常に困難。特に技術職員は、母数もかなり少なく苦慮している。また、ヨーロッパ方面からの輸入ルート確保も課題。スエズ運河を回避し、喜望峰回りが主となり、リードタイム、運賃等上昇になっている。	卸売業 その他の産業 機械器具卸売業
	仕入単価の上昇により、価格転嫁したいと思うが、当店では固定客は60代以上の年金生活のお客が多いため、なかなか価格転嫁ができていない。	小売業 電気機械器具 小売業（中古品を除く）
	中小企業からコロナ後の業務改善相談が数多く寄せられていますが、熟練技術者の確保が難しく対応しきれない。企業も人集めに苦労されていますが、支援すべき弊社も人手不足で双方の業績向上の足かせです。	サービス業 受託開発ソフトウェア業
見通し	主要取引先の設備投資計画が後ろ倒しとなるケースが多く、製造をとりまく環境の好転は、まだ先になると実感。原材料費高騰、円安の影響は、受注単価の低下に直結し、この傾向は、しばらく続くと予測しています。	製造業 工業用プラスチック製品加工業
	年初より能登での災害が発生し、また、関西万博等の大規模のプロジェクトが本格的に始まると、資機材の調達に厳しくなると予想されます。世界的なインフレ傾向の中、収益を圧迫していくと感じています。	建設業 一般土木建築 工事業
	現状の為替水準では、採算が取れない。値上げも限界がある。物流コストも上昇、物価高から需要も低迷。先がまったく見えない。	卸売業 その他の身の回り品卸売業
	原材料の価格上昇は、穏やかになりつつあるが、まだ上昇は続いており、今後商品の価格についても、値上げする必要があると思う。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	本年4月より、2024年問題による従業員の拘束時間の制限や、残業代の割り増し等が発生し、先行きが見通せない。トラックを12月に買い替える予定であるが、購入価格がかなり高騰している。	サービス業 特定貨物自動車運送業

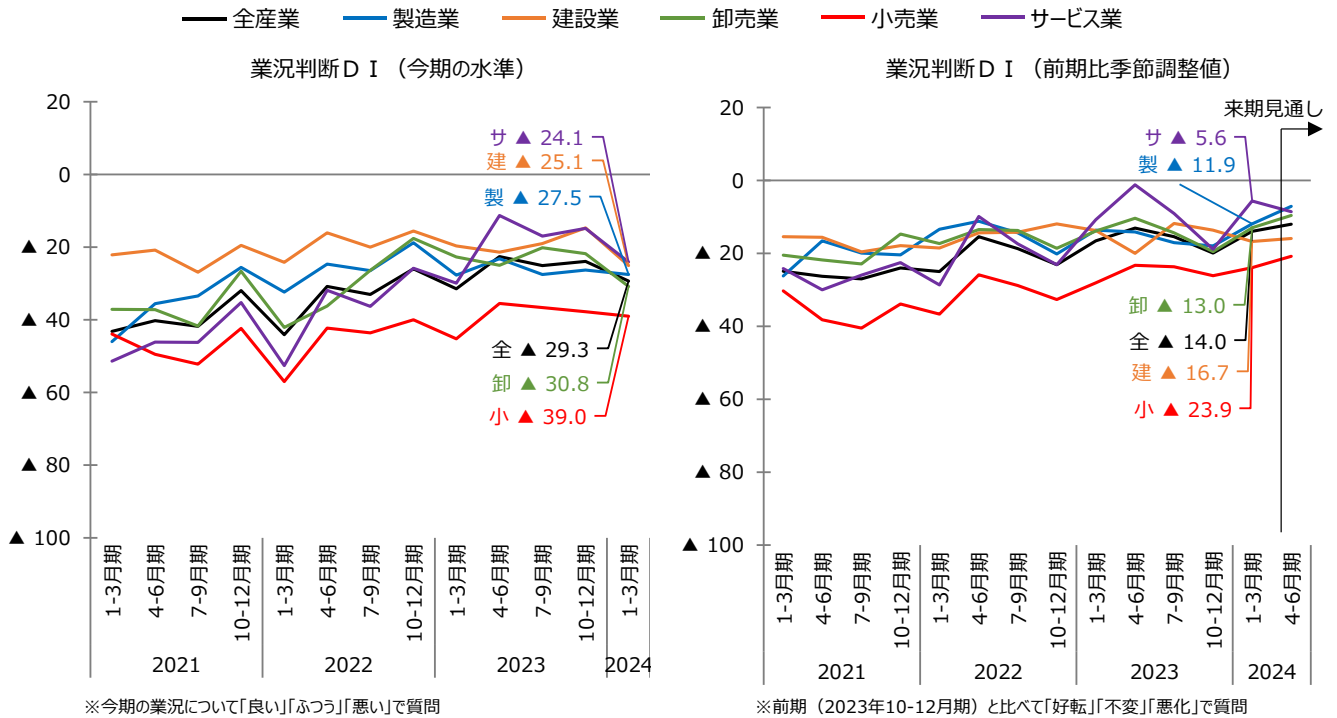
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中国

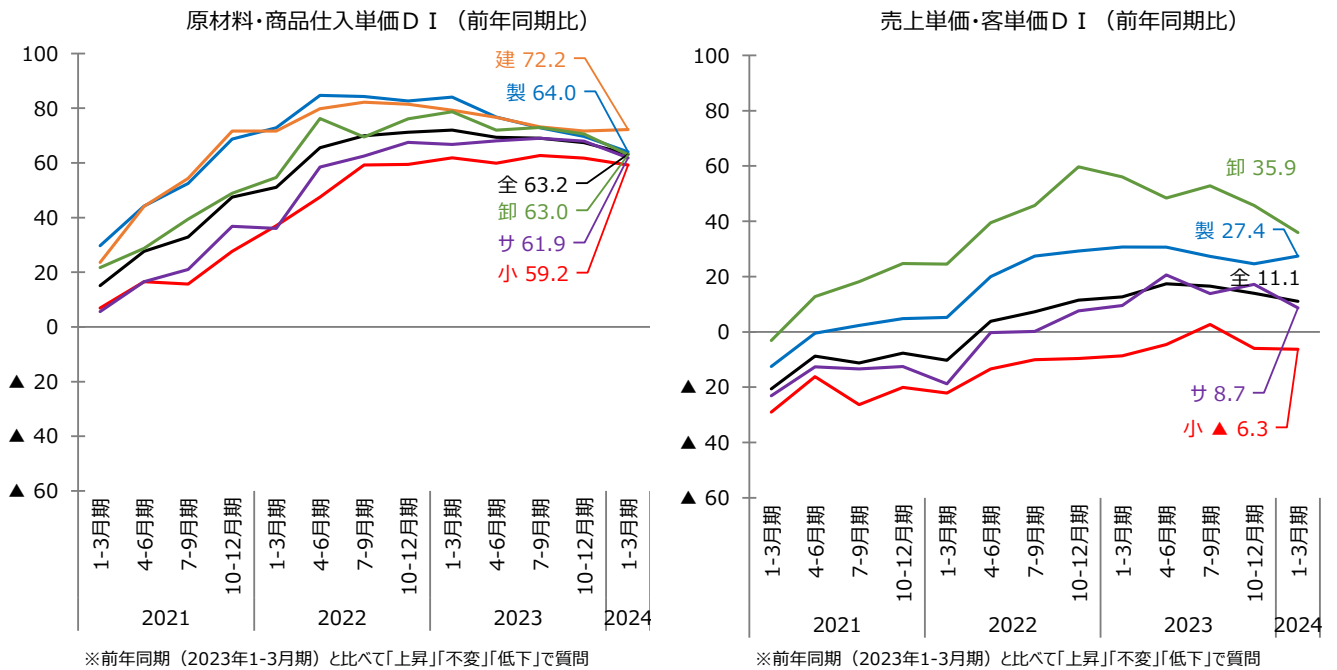
## 1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より5.4ポイント減の▲29.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.2ポイント減の63.2と4期連続して低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の11.1と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、中国：1,669企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 中国

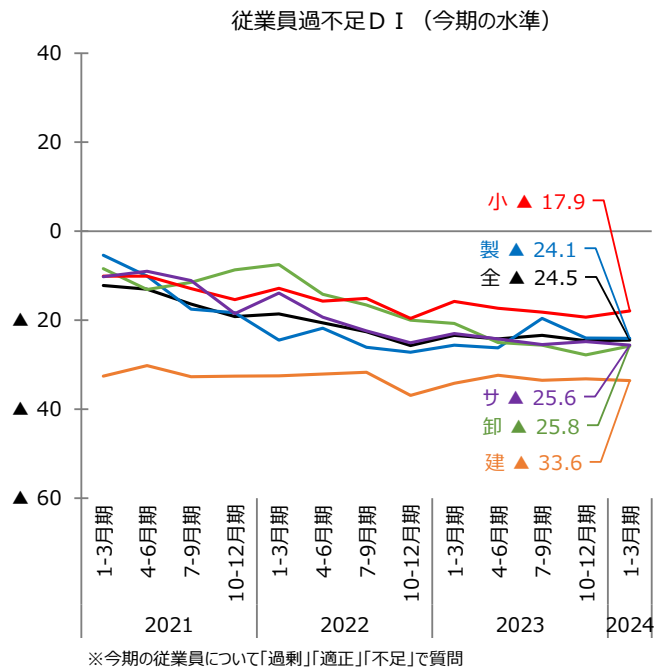
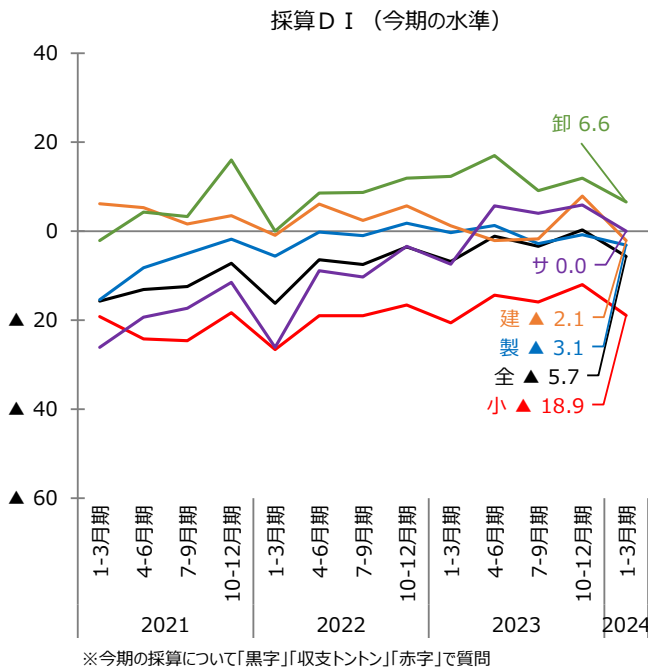


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より6.0ポイント減の▲5.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の▲24.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、建設業、製造業で低下した。



## 5. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	厳しい状況の中、古い工場の修理、修繕をしたいが、経費の増加、売上減少、先行きの不透明な状態の中では思い切ること不安である。我社ならでは製品の売込みに力を入れることを考えているところ。	製造業 <small>他に分類されない木製品製造業(竹、とうを含む)</small>
	各業界の建材、人件費等の上昇により、粗利益確保が難しい。また受注が難しくなっている。	建設業 木造建築工事業
	物不足・仕入価格の高騰等の悪影響が強く、受注に苦戦している。活動制限がなくなったことによる経費増加や、設備投資もあり、利益確保が厳しい状況となっている。	卸売業 <small>電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)</small>
	昨年5月以降、コロナの影響も一段落したと思っていたが、物価高で周辺の大型店や安売り店への買い物移行が否めない。客単価の減少・仕入単価の上昇で業況は好転していない。	小売業 酒小売業
	コロナ禍が収束に向かい、客数も戻ってきたように思えるが、人口減少と少子高齢化が進み、需要の低下に伴う売上は、減少傾向にある。	サービス業 食堂、レストラン(専門料理店を除く)
見通し	半導体市場は、緩やかな回復基調。生成AI市場が加速しており、AI半導体が既に枯渇し、半導体関連企業の生産設備が見られ、今後も注視。	製造業 プラスチック板・棒製造業
	物価の上昇が続く中、当社の業務内容の分野は影響が出やすく、今後は、住宅設備の受注工事は、減少方向にあると予想している。前年、前期と比較した時には、大きな変化は見られないが、決して上昇傾向にあるとは言えない。	建設業 その他の管工事業
	昨年12月の定年退職による人員減をカバーできず、困っている。物価高によると思われる引合いの低調さが、今後回復するかどうかの不安もある。コロナからの改善は見込めるが、先行きは予想しづらい。	卸売業 酒類卸売業
	従業員の賃金を引き上げたが、新たな人材は入ってきていない状況。深刻な人材不足に陥っている。ガソリン補助金の効果も、春先までと予想されるため、今春以降は、大変厳しい状況になると思われる。	小売業 ガソリンスタンド
	売上高が堅調に推移している一方で、従業員教育が進んでいない。今後は熟練技術者のノウハウをデジタル化し、従業員間で情報共有できる仕組みづくりに、取り組む計画である。	サービス業 他に分類されないその他の事業サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

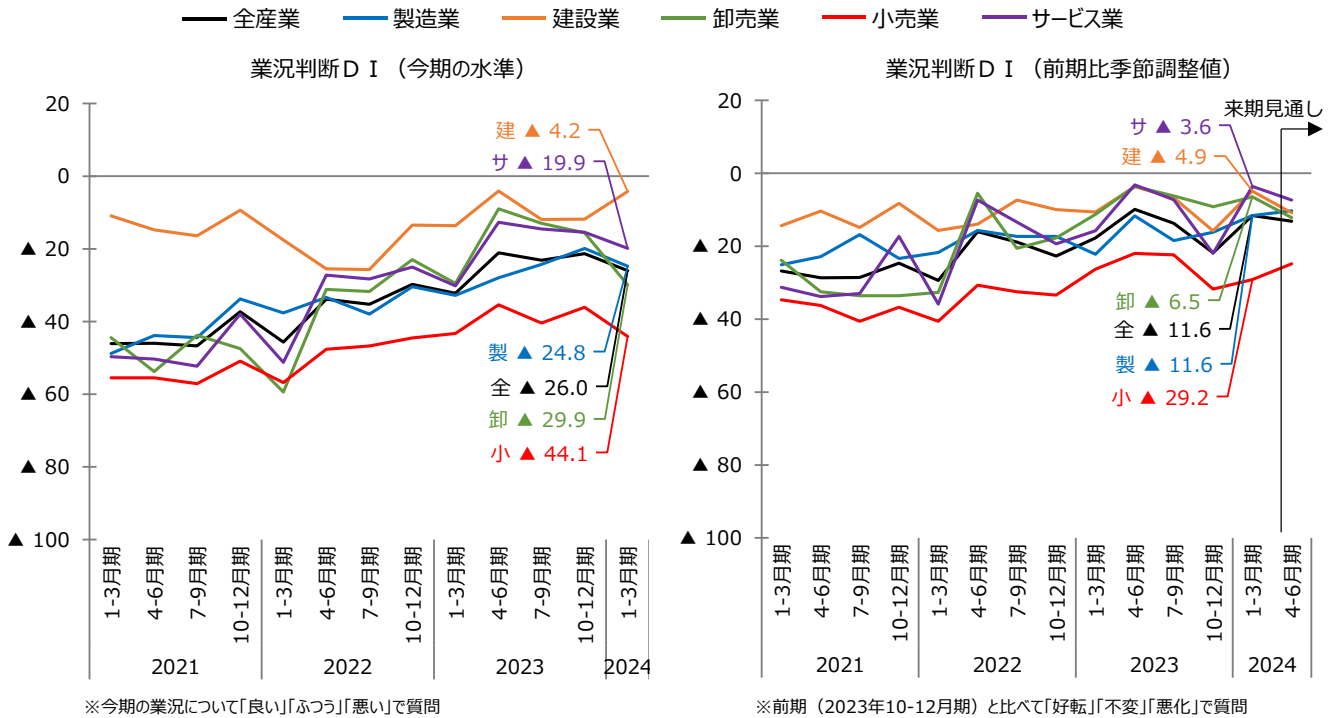
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 四国



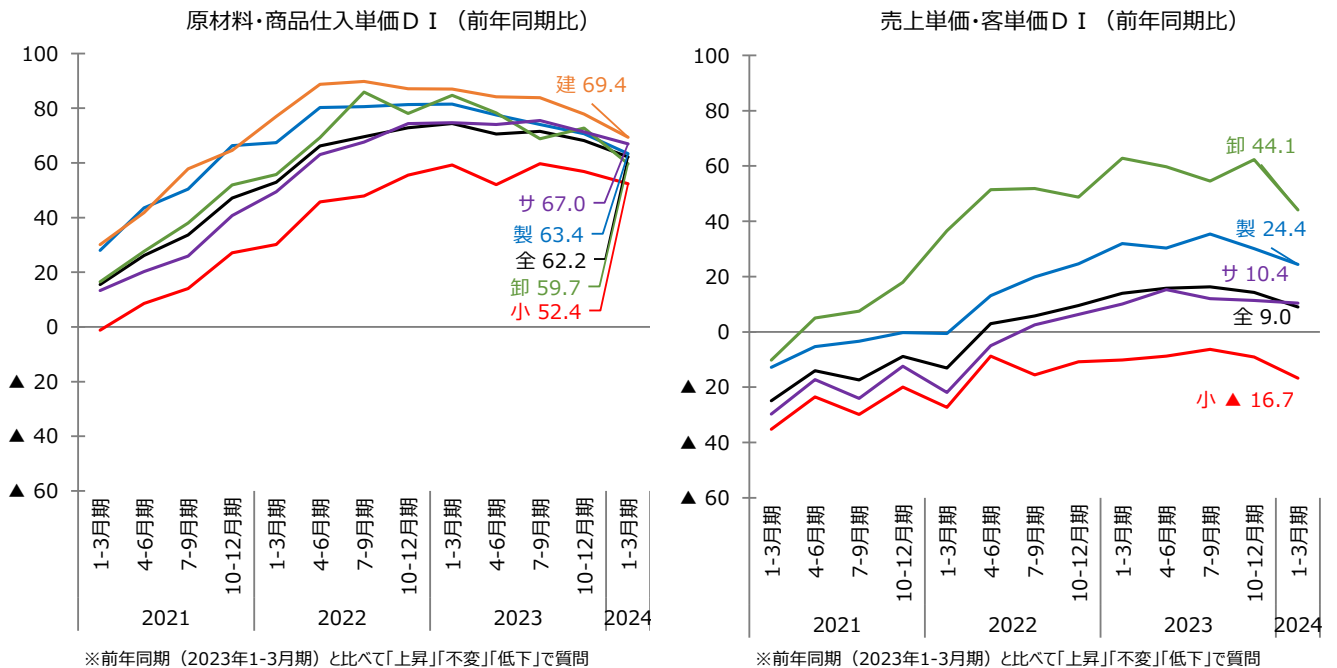
## 1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より4.7ポイント減の▲26.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、小売業、小売業、製造業、サービス業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より6.0ポイント減の62.2と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.3ポイント減の9.0と2期連続して低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

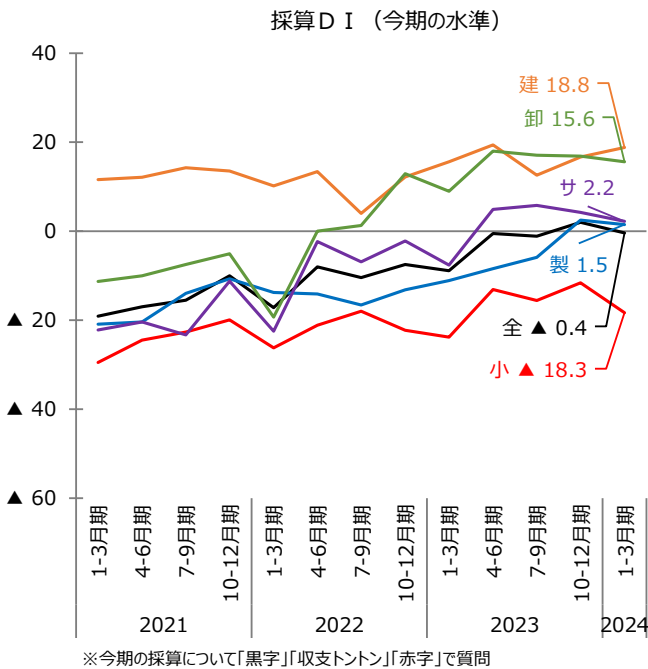
今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、四国：1,263企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 四国

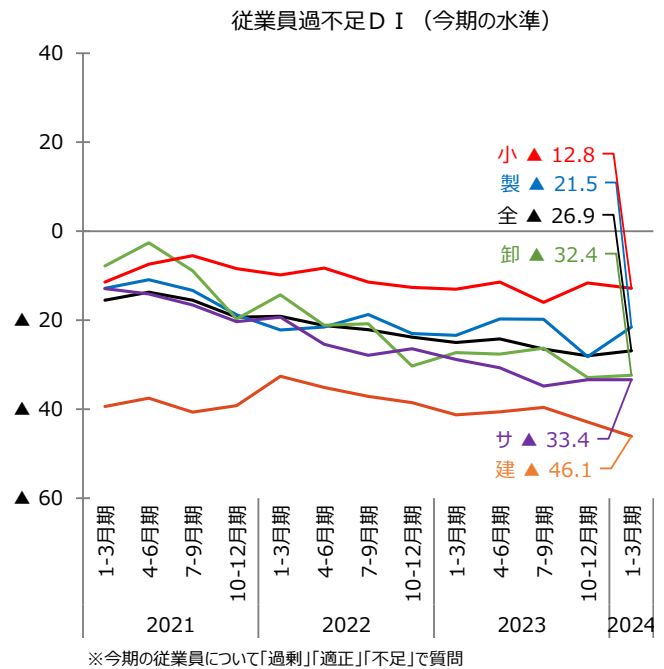
## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の▲0.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、サービス業、卸売業、製造業で低下した。



## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.1ポイント増の▲26.9と3期ぶりに上昇。産業別にみると、製造業、卸売業で上昇、サービス業で横ばい、建設業、小売業で低下した。



## 5. 四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	熟練技術者の離職後の補充が困難。従業員数自体は確保できているが、定着率も芳しくないため技術の継承ができない。	製造業 製鋼・製鋼圧延業
	コロナ不況から脱し、業種によっては、設備投資意欲が増大してきているが、建設業においては、2024年問題への対応が業界不況の最大課題です。人材確保の可否が、そのまま業績に反映されることになる。	建設業 一般土木建築工事業
	販売価格の上昇が必須の状況ではあるが、得意先が売上アップに苦戦している為、十分な価格転嫁ができていない。また、人材確保の面でもベースアップの原資として、価格転嫁は必須であるので悩ましいところ。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	物価高の影響により、客単価は上昇しているが、仕入価格も上昇しているため、利益確保が困難。需要の低迷が懸念される。	小売業 スポーツ用品小売業
	需要はあるが、人材不足の為、お断りが増えてしまう。人さえいれば、もっと業績アップが見込まれる。	サービス業 美容業
見通し	原材料価格の値上がりは、一時期の勢いは薄れたが、依然として続いている。これから賃金交渉の時期になり、賃金引き上げの幅をどうするのが検討課題。	製造業 農業用機械製造業（農業用器具を除く）
	コロナ期と比べると、仕事量は増えてきているが、公共工事や民間工事は減少しているため、利益の確保が難しい。まだまだ材料価格は上昇傾向にあるため、先行きが不安である。	建設業 土木工事業（別掲を除く）
	農業者人口の減少、農地面積の減少が、これから加速していきそうで、このことへの対応が急務である。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	コロナによる、需要の停滞や、ニーズの変化による、個人の店舗への注文の減少、ウクライナ紛争等の要因による、仕入単価の上昇など、今後の見通しが不安。	小売業 鮮魚小売業
	前年同期と比べると、客数も増加し、売上高も増加傾向にあるが、未だに、材料費などの仕入高の上昇により、業況は好転までとはいかない。しかし、課題であった従業員を確保することができたことは、来期に繋がると思う。	サービス業 お好み焼き・焼きそば・たこ焼店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

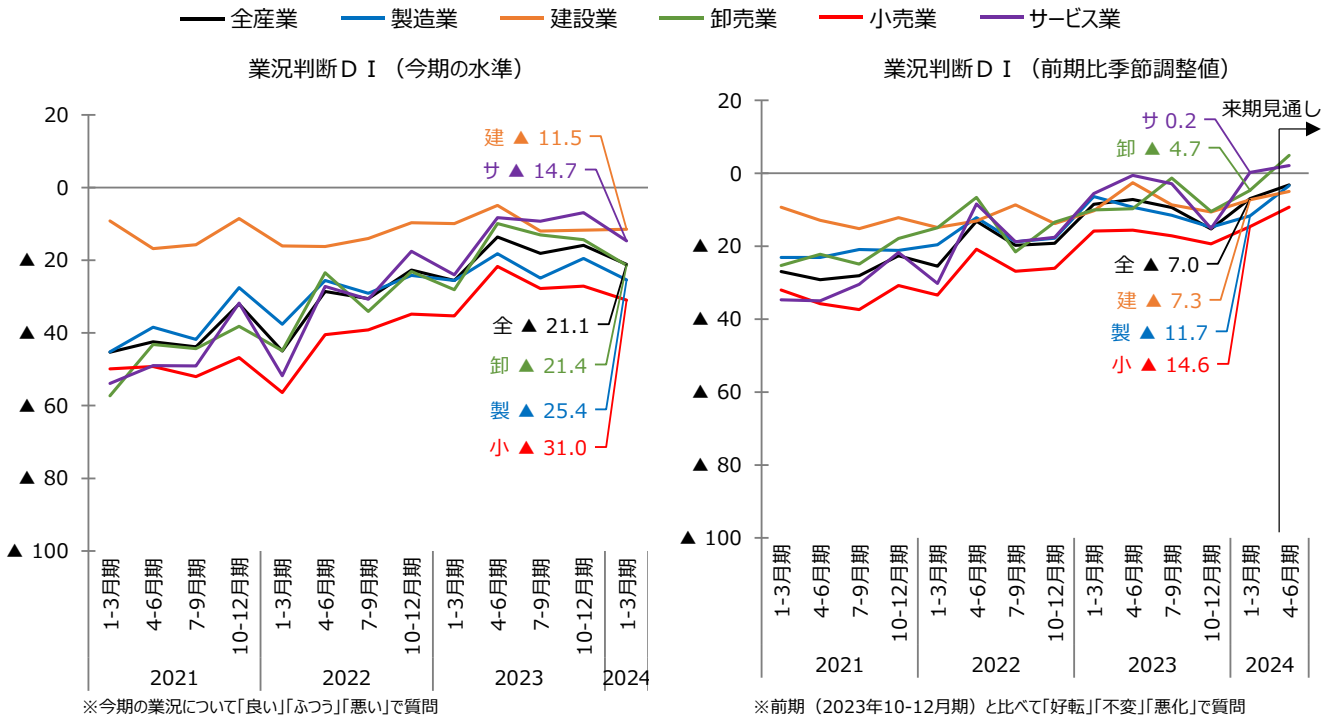
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 九州・沖縄



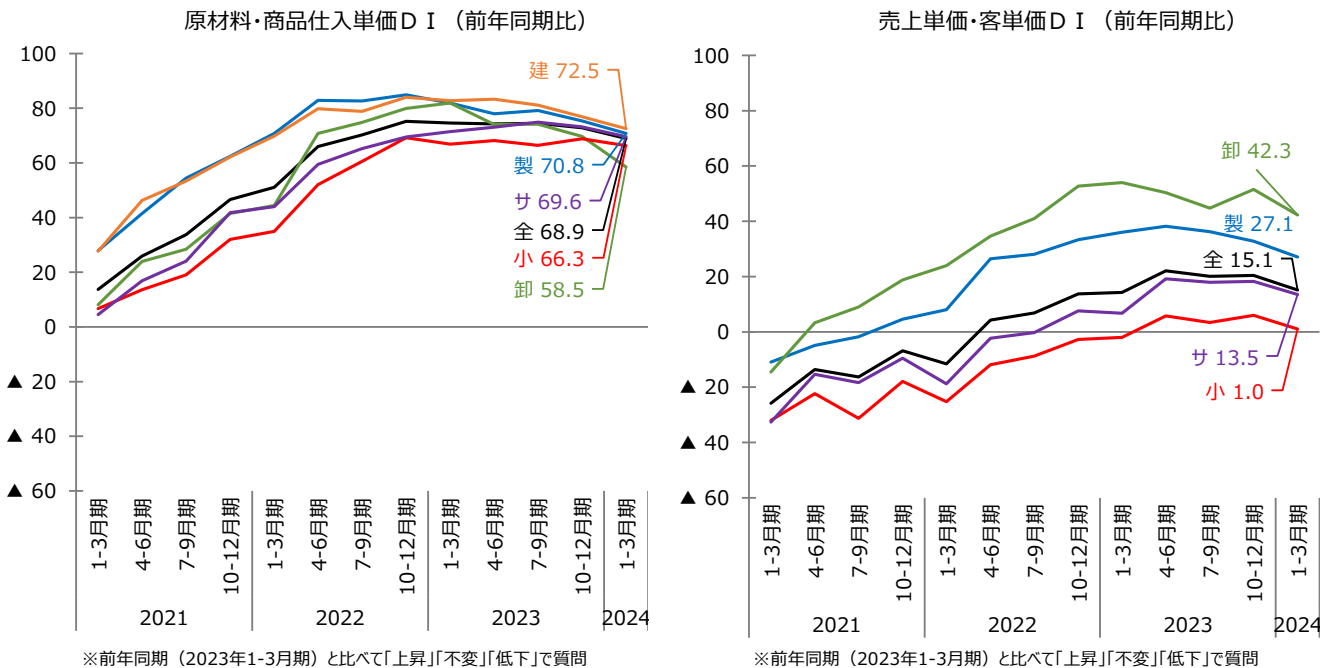
## 1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より5.2ポイント減の▲21.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、製造業、小売業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の68.9と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.3ポイント減の15.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、九州・沖縄：2,718企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

# 第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 九州・沖縄

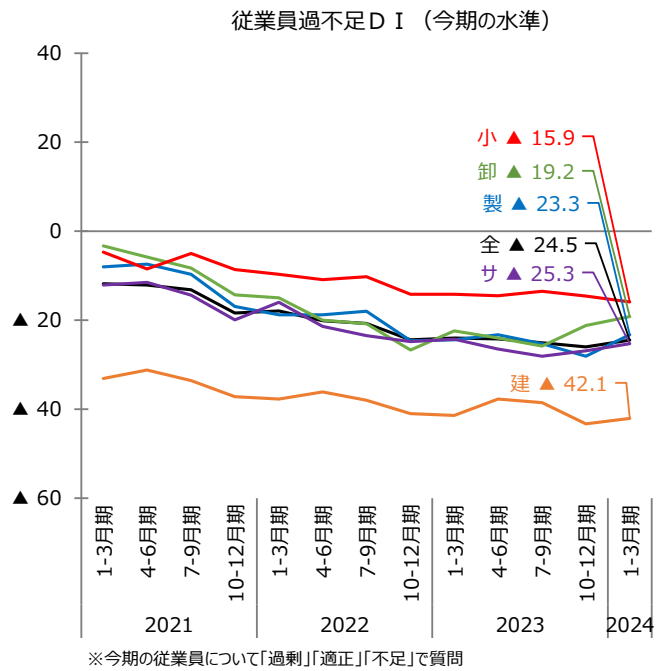
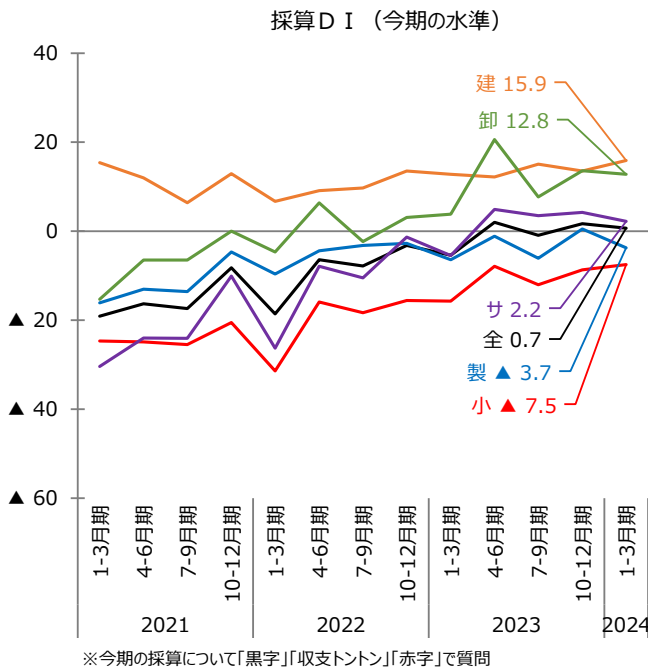


## 3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の0.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業で上昇し、製造業、サービス業、卸売業で低下した。

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の▲24.5と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業、建設業で上昇、小売業で低下した。



## 5. 九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	過去2年の反動からか、需要の伸びが大きい。しかし、生産が追いつかない状況。	製造業 その他の外衣・シャツ製造業
	資材高騰、建築物価の上昇を、ある程度ユーザーが受け入れてきている感じがする。民間工事の引合いの活発さは、依然として続いている。	建設業 建築工事業 (木造建築工事業を除く)
	人材の確保、定着にも、DX化に取り組む必要がある。属人化する業務を早めに脱却できるように、システムへ投資し、少しでも人の問題を軽減させたい。	卸売業 板ガラス卸売業
	コロナ5類と共に、客足は少しずつ回復傾向にあるが、原材料費の高騰は、依然として続いており、利益確保が厳しい状態である。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	昨年度で比べると、コロナ助成金による集客の反動で、大きく減少したように見えるが、コロナ前と比べると、コロナ期間中に設備投資したこともあり、堅調な足どりで売上は伸びている。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	昨年、採用と引き留めの為、昇給を2度に渡り行ったが、今春の昇給は、昨年以上の額が必要と考えている。その分の価格転嫁が、必須となっている。	製造業 銅・同合金鋳物製造業 (ダイカストを除く)
	建設業界にかかわらず、資源・資機材価格の高騰等、人材不足や就業者の高齢化など、不透明な状況にある。引き続き、労働環境改善の為、休日を増やし、賃金アップに取り組まなければ、持続可能な経営は、難しいと感じている。	建設業 一般土木建築工事業
	観光客も増えてきている為、前期と比較して売上は、増加傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い、販売単価も上昇している為、売上は好転している。	卸売業 米麦卸売業
	昨今の仕入単価上昇分の価格転嫁もほぼ完了し、昨年末頃から上昇気運の兆しを感じられる。これから春先にかけて、更なる購買力アップに期待し、業況の改善につなげていきたい。	小売業 各種食品小売業
	足元の1~3月が低調で、単価を上げて何とか維持しているが、需要停滞すれば、価格は下げざるを得ない状況、各キャンペーンの反動減が長びかないことを願う。人手不足は深刻で、今後が心配です。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。